



松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

2024年 3月 22日 発行

松蔭中学校・松蔭高等学校
校長 浅井 直光

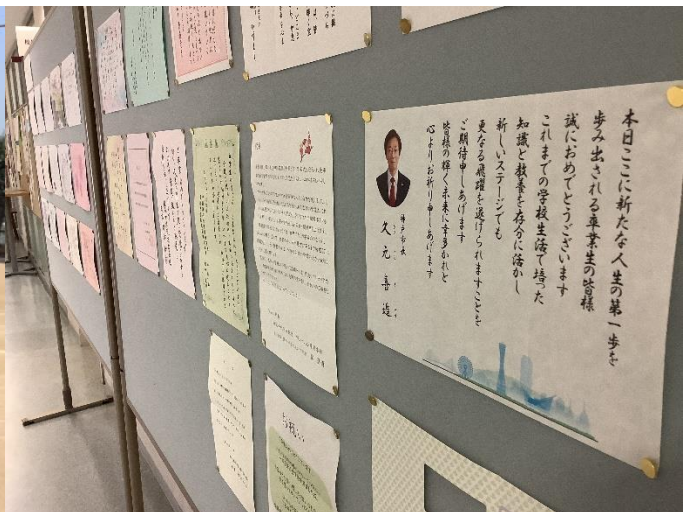
「わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます」コリントの信徒への手紙Ⅱ4：16（今年度の年間聖句）

2024年度に向けて 「ターム留学制度」「合理的配慮の義務化」「ハンドブック」

先月、これまで4年にわたって学校ホームページのトップページにあった「感染症に関するお知らせ」バナーを削除しました。教員会議においても、学校としての新型コロナウイルス感染症対応をすべて終了することが確認されました。感染症に関する私の記録メモは、2020年2月のページから合計249ページにのぼり、昨年8月の「学校関係者に陽性判明」が最終行となっています。感染症による制限が撤廃された今年度の学校活動をあらためて振り返っています。1年間の修了の日を迎えた終業式、中学校卒業式、そしてチャペルでの「松蔭賞」授与式に集う生徒たちは、皆一様に柔らかな表情を見せていました。アフターコロナの時代に入り、安心して学校生活を送ることができた成果ではないかと感じています。



<3/15 桜のつぼみが膨らむなか今年度最後の授業（中1体育）>



<3/22 中学校卒業生にいただいた各界からのご祝辞>

さて、2024年度からの変更点として、「ターム留学制度」と「合理的配慮の義務化」についてお知らせします。

まず、新しく設ける海外への「ターム留学制度」についてですが、本校では夏休みのNZ短期語学研修、韓国異文化体験研修のほか、高校生対象の1年間の単位認定留学制度があります。しかし、夏休み中の1~2週間では短いし、1年留学はハードルが高いという声がありました。そこで、「ターム留学制度」を新設し、1~3ヶ月程度の期間の個人の海外留学について、審査のうえで学校が認定した場合に限り、欠席とはならない制度を設けました。学年は中学2年~高校2年の年度末までが対象で、留学先学校が正規の中等教育機関（中学校または高等学校）であることなどの条件があります。詳細は、国際交流係の先生（ハートレス先生、山田先生）までお問い合わせください。

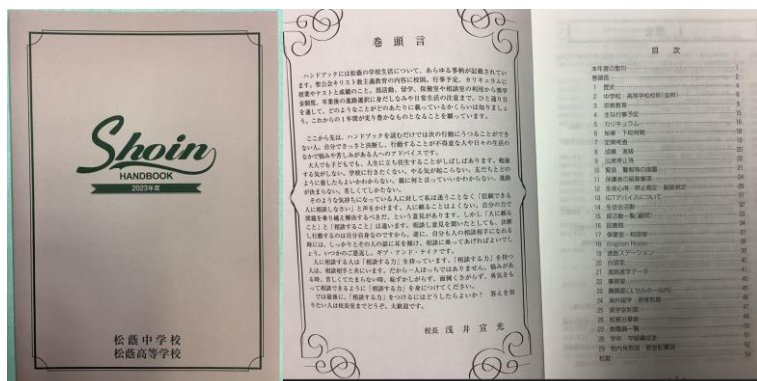
次に「合理的配慮の義務化」についてお知らせします。字面からは一体何のことかと思われる方もおられるかも知れませんが、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」の一部改正により、4月1日より、すべての事業者（私立学校を含む）で「合理的配慮の提供が義務化」されることとなります。「合理的配慮」とは、障がいがある人から「社会の中にあるバリア（障壁）について何らかの対応が必要」という意思が伝えられた場合、事業者側の負担が重すぎない範囲で必要かつ合理的な対応を行うことです。自治体や公立学校ではすでに義務化されていましたが、4月1日より私立学校を含め、すべての事業者で義務化されることとなります。

本校では、すでに校内の「特別支援委員会」がニーズがある生徒の状況に応じて必要な支援を検討し、対応していますので、今回の「義務化」により大きな変更はありません。実際の例としては、視覚障害がある場合に板書をタブレットで撮影することを認めたり、テストで問題用紙や解答用紙を拡大したりすること。別室での受験を認めたり、必要に応じて考査時間を延長したりすることなどです。通常の社会生活（学校を含む）を、一人ではしにくいから、あるいは皆と同じようにすることに困難が生じる場合には、組織（学校）として可能な限り支援する、ということです。公立学校の入学試験ではすでに問題文へのルビうち対応や補聴器、拡大鏡、車椅子等の補助具の使用、座席位置の変更など特別措置が行われていますので、今後、本校の入学試験においても同様の措置を講じる場合があります。

「教育的配慮」という言い方があります。個々の教員（あるいは校長の所感）による任意の働きかけである「教育的配慮」とは異なり、法に基づいた学校判断としての「合理的配慮」です。「特別扱い」や「不公平感」を持つことは、場合によっては、しょう患者差別を生み出す原因となる可能性があります。あらためて社会全体の動きについて、保護者の皆様のご理解をお願いする所存です。生徒たちに対しても、ダイバーシティやスクールモットー“Open Heart Open Mind”と関連づけながら、様々な場面でこの趣旨を伝えたいと思います。

*学校が行う「合理的配慮」について詳細（兵庫県教育委員会資料）はこちらから→[indd \(hyogo-c.ed.jp\)](http://indd.hyogo-c.ed.jp)

「ハンドブック」はデジタル版に



学校生活のインフォメーションブックとして毎年度初めに全校生に配布している冊子「Shoin Handbook（ハンドブック）」ですが、2024年度よりデジタル版とし、冊子による配付をとりやめます。年度初めにClassi配信するほか、学校ホームページからご覧いただけるようになります。詳しくは、後日Classiにて連絡いたします。

併設大学の共学化について 校内説明会

併設大学（神戸松蔭女子学院大学）が、2025年度入学生より男子学生の受け入れを開始します。創立以来、130有余年の本学院教育の一大転換点となります。

3月9日午後、講堂にて神戸松蔭女子学院大学の待田昌二学長、新学長に就任予定の徳山孝子人間科学部教授をお招きして、併設大学共学化についての、中高の校内説明会を開催したところ、保護者、生徒の皆さん約30名が出席されました。待田学長より、ジェンダーダイバーシティの観点からの共学化の必要性の説明のほか、「神戸松蔭女子学院大学」から「神戸松蔭大学」への大学名変更、学科再編として「英語学科」が「グローバルコミュニケーション学科」に、「都市生活学科」が「人間科学科」にそれぞれ改組することなどが報告されました。「グローバルコミュニケーション学科」では、これまで英語のみに特化していた学びを、韓国語や中国語、他方面の異文化理解を深める方向とすること、「人間科学科」こと。これまでの都市生活の衣食住の問題を探究することに加え、経済・経営の学びやデータサイエンスについても学びを深める予定であることなども説明されました。徳山次期学長からは大学運営についての抱負が述べられました。質疑応答では保護者の方から、概ね賛成だが、中期計画等との整合性はあるのか、という質問のほか、他大学の動向について、また、管理栄養士課程の募集停止に対する高校側の進路指導についての質問がありました。

新年度当初の予定 詳細は、各学年だよりでご確認ください。

4月8日（月）入学式（中学校新入生、新高校1年生のうち高校入学生。新高校3年生のみ登校）

4月9日（火）始業式 8:45 朝礼（中学・高校） 始業式・クラス写真撮影・HR後、終礼